



厳しい残暑の中にも雲の形、空の高さ、傾いた日差し、虫の声…秋の気配は近づいてきました。今年はいギリス館コンサートが早かったこともあり、特に夏が長く感じられます。コンサート後一度イギリスに戻った伊都さんは、9月5日のライブに向けて日本にトンボ帰りです。オリンピックのおかげで、イギリスの様子がテレビでも連日映し出され、遠い国が少し身近になった夏でしたね。

近況報告

ようやくビザを取得できることとなり、その申請のため先日、オリンピックの興奮渦中、そして興奮冷めやらぬロンドンより戻ってきました。その間に友人の結婚式のためウィーンから南、ほぼスロヴェニアとの国境に近いオーストリアの田舎に行ったり、庭のほぼ半数以上をしめるリンゴの木に実り始めたリンゴが青々と美しい、まるでリンゴ園のような、ロンドンから少し南西のイギリスの田舎町の農家にハーブのお話を聞きにいたり、共通して、特に田舎町の風景が素晴らしいといわれている二つの国の、観光シーズン真っ最中の都会の喧騒を離れて、静かな田舎の美しい自然の景観を、わずかの時間でしたが味わうことができました。

すでに、朝晩はかなり冷え込み、時折びっくりするような冷たい風が、秋の気配をそこかしこに漂わすロンドンより帰ってきてみると、日本はすべての気力を根こそぎ奪うような猛暑続き。ビザの申請に追われながらも、今年3月に行った横浜のライヴハウスのコンサートが好評につき、9月5日、東京でもライヴコンサートを行うことになりました。東京、渋谷、Bunkamura 隣のライヴハウスにて、純クラシックから、ガーシュイン、ピアソラまで、身近にヴァイオリンの生音を、曲目解説のMC付きで、お届けします。

今回は2'nd ステージの最初に、友人の新進気鋭の画家「新藤杏子」が描いた作品を動かしながら、そこに音をのせるという企画もします。残念ながら本人は怪我のため当日、一緒にコラボレーションができないのですが、絵も音楽もメインという新しい形の楽しみ方を展開していくことができればと思っています。

週の真ん中、少し仕事や家事に疲れた水曜日の夜のひと時、人の声に一番近いといわれているヴァイオリンの音色でほっと一息、楽しんでいただけたと思いますので、足を運んでいただけましたら嬉しいです。

【伊都】

第5回イギリス館コンサート

真夏の夜の風「Wiener Wind」が今年も港の見える丘に吹きました。今年はいウィーンの風ではなく、伊都さんのメッセージによると「文字の生まれるはるか昔より、音楽に自らの思いをのせて歌い、奏で、そして今も歌い、奏で続けているラテン民族たちの情熱の風を…熱く舞わせることができればと思っています。」という思いがこもっていました。

特に後半はファリャ「スペイン民謡組曲」、サラサーテ「ロマンス・アンダルシア」、ラヴェル「亡き王女のためのパヴァーヌ」そして同じくラヴェルの難曲「ツィガーヌ」と、スペインゆかりの作曲家（ラヴェルの母はスペインのバスク人）の作品で、伊都さんらしい、深い表現の演奏が冴えました。最後の「ツィガーヌ」はフランス語で「ロマ（ジプシー）」という意味で、音楽の民族性に強く憧れたラヴェルの濃厚で熱狂的な作品、と称されていますが、ロマの喜怒哀楽を表現した伊都さんの超絶技巧が、まさに熱く舞った一曲でした。

アンコールは話題の国、イギリスの民謡メドレー「埴生の宿」「庭の千草」「グリーンスリーブス」「アニーローリー」。郷愁を誘うメロディーに会場が和みました。

後援会主催のコンサートも早や5回を数え、お蔭さまで毎回満席でご好評をいただいております。いつも支えて下さる会員の皆様に深く感謝を申し上げます。



ピアニストは名コンビ荒井裕子さん



ライブコンサートのお知らせ

2012年 9月5日(水) open 18:30 Violin 加納伊都
 1st stage 19:30 Piano 荒井裕子
 2nd stage 21:00 — 絵の映像と演奏のコラボレーション
 (ステージ毎の入れ替えなし)

演奏曲 バッハ : パルティータ第3番より クライスラー: 中国の太鼓
 ショパン: ノクターン ブラームス: ハンガリー舞曲
 イザイ : ソロソナタより ガーシュイン: ポギーとベスより
 ピアソラ: リベルタンゴ 他

サラヴァ東京 東京都渋谷区松濤1丁目29-1 渋谷クロスロードビルB1
 (Bunkamura 隣り)

TEL: 03-6427-8886

チャージ料 (1ドリンク付) 予約 3,500円 当日 4,000円

予約はインターネットまたは電話で 直接サラヴァ東京まで



第10回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2012年 12月21日(金) 6時半開場 7時開演 みなとみらいホール小ホール

クリスマス前の金曜夜! 10月下旬頃ご案内をお送りいたします

DVD CLASSIC COLLECTION



作品 No.13

「ウエストサイド物語」

1961年アメリカ

カラヤンのライバル、レナード・バーンスタイン作曲の不朽の名作



ストーリー

ニューヨークのウエストサイドで対立するジェット団とシャーク団。ジェット団から抜けて真面目に働くトニーと、シャーク団のリーダーの妹 MARIA との悲しいラブロマンス。現代版ロミオとジュリエット。言わずと知れたバーンスタインの名曲の数々「トゥナイト」「MARIA」「アメリカ」「サムウェア」など、珠玉のメロディが映画全編を彩る。

見どころ

ニューヨークフィルの指揮者でクラシックもミュージカルも作曲してしまうレナード・バーンスタイン (1918～1990) は、伊都さんもよく演奏するガーシュインの後を受け継ぎ、クラシックやジャズというジャンルを超えた自由の国アメリカらしい音楽を創り出した。映画は昨年制作50周年を迎え話題となった。ナタリー・ウッドもジョージ・チャキリスも若く美しい。

感想

50年前この映画を観て、子供ながらに受けた衝撃は忘れられない。今、改めて観ても、当時斬新だった振り付けとバーンスタインの音楽は、単なる懐かしさだけではない魅力を感じる。ガーシュインもバーンスタインも「音楽は楽しい!!」というメッセージをすべての人に伝えたかったのかもしれない。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 オリンピックで睡眠不足になった後の容赦ない残暑は、厳しさを増しますね。それにしてもテレビのインタビューに明るく答える選手達を見ていると、もはや努力と根性だけのスポ魂の時代ではないことを感じます。/ところで何故「ウエストサイド物語」かということ、渋谷シアターオーブこけら落し公演のため来日したブロードウェイの舞台を観たからなのです!ミュージカルなのにバレエやオペラを観ているような身体能力の高さに圧倒されました。体のバネの強さや声量の豊かさは訓練の成果だけではないような気もしますが、日本の若者だってスポーツも音楽も、世界と肩を並べ大活躍しているのですから頼もしいですよ。伊都さんもまるで「大阪一東京」のような「イギリスー日本」の移動。お疲れさまです! <ゆ>

発行: 加納伊都後援会 TRAU BEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15
 TEL: 045-622-6780
 FAX: 045-621-6423
 Email: itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp
 Homepage: http://www.ito-vn.jp/